

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・住戸部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q-1 建築物の環境配慮性能			0.40			3.4
Q-1 室内環境						3.5
1 音環境		3.2	0.15			3.2
1.1 騒音		3.0	0.40			
1.1.1 1 騒音レベル		3.0	1.00			
1.2 遮音		3.6	0.40			
1.2.1 1 開口部遮音性能		3.0	0.40			
1.2.1 2 界壁遮音性能	D-45以上の界壁遮音性能を確保した界壁を採用	5.0	0.30			
1.2.1 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.15			
1.2.1 4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.15			
1.3 吸音		3.0	0.20			
2 温熱環境		3.0	0.35			3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50			
2.1.1 1 室温設定		3.0	0.60			
2.1.3 3 外皮性能		3.0	0.40			
2.1.4 4 ゾーン別制御性						
2.2 湿度制御		3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
3 光・視環境		3.9	0.25			3.9
3.1 昼光利用		3.0	0.30			
3.1.1 1 昼光率		3.0	0.60			
3.1.2 2 方位別開口						
3.1.3 3 昼光利用設備		3.0	0.40			
3.2 グレア対策		4.0	0.30			
3.2.1 1 グレア抑制	ブラインドに庇(テクニカルバルコニー)を組み合わせてグレアを制御	4.0	1.00			
3.3 照度		4.0	0.15			
3.3.1 1 照度		4.0	1.00			
3.4 照明制御	共用部照明を管理室で集中管理が可能	5.0	0.25			
4 空気質環境		4.2	0.25			4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.50			
4.1.1 1 化学汚染物質	建築基準法規制対象外となる建築材料を全面的に採用	5.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
4.2.1 1 換気量		3.0	0.33			
4.2.2 2 自然換気性能		3.0	0.33			
4.2.3 3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33			
4.3 運用管理		4.0	0.20			
4.3.1 1 CO ₂ の監視		3.0	0.50			
4.3.2 2 喫煙の制御	建物内禁煙	5.0	0.50			
Q-2 サービス性能			0.30			3.6
1 機能性		3.4	0.40			3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.60			
1.1.1 1 広さ・収納性						
1.1.1 2 高度情報通信設備対応						
1.1.1 3 バリアフリー計画		3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.40			
1.2.1 1 広さ感・景観	実験室の天井高さ3.2m以上確保	5.0	0.50			
1.2.2 2 リフレッシュスペース						
1.2.3 3 内装計画		3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		3.4	0.31			3.4
2.1 耐震・免震		3.8	0.48			
2.1.1 1 耐震性	建築基準法に定められた20%増の耐震性を確保	4.0	0.80			
2.1.2 2 免震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33			
2.2.1 1 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.29			
2.2.2 2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.12			
2.2.3 3 配管・配線材の更新必要間隔		3.0	0.29			
2.2.4 4 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.29			
2.4 信頼性		3.2	0.19			
2.4.1 1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2.4.2 2 給排水・衛生設備		3.0	0.20			
2.4.3 3 電気設備		3.0	0.20			
2.4.4 4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
2.4.5 5 通信・情報設備		4.0	0.20			

3 対応性・更新性			4.0	0.29			4.0
3.1 空間のゆとり							
1	階高のゆとり	階高3.9m確保	4.2	0.31			
2	空間の形状・自由さ		5.0	0.60			
3.2 荷重のゆとり		3500N/㎡以上確保	3.0	0.40			
3.3 設備の更新性			5.0	0.31			
1	空調配管の更新性		3.2	0.38			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	居室及び研究室内はOAフロアの為後施工が可能	3.0	0.17			
4	通信配線の更新性		5.0	0.11			
5	設備機器の更新性		3.0	0.11			
6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q-3 室外環境(敷地内)				0.30			3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
ER-1 エネルギー				0.40			3.4
1 建物の熱負荷抑制		庇による日射遮蔽を図っている	5.0	0.30			5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		COPの高い空調機器の採用している	4.1	0.30			4.1
4 効率的運用			3.0	0.20			3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
ER-2 資源・マテリアル				0.30			3.3
1 水資源保護			3.8	0.15			3.8
1.1	節水	節水こまど節水型便器の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.6	0.60			
1	雨水利用システム	雨水利用を行っている	4.0	0.67			
2	雑排水利用システム		3.0	0.33			
2 低環境負荷材			3.2	0.85			3.2
2.1 資源の再利用効率			3.0	0.35			
1	躯体材料の再利用効率		3.0	0.67			
2	非構造材料の再利用効率		3.0	0.33			
2.2 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.04			
2.3 有害物質を含まない材料			3.0	0.08			
2.4 既存建築躯体などの再利用			3.0	0.18			
2.5 部材の再利用可能性		躯体と仕上げが用意に分別可能となっている	4.0	0.18			
2.6 フロン・ハロンの回避			3.3	0.18			
1	消火剤	ハロン消火剤を使用しない	4.0	0.33			
2	断熱材		3.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
ER-3 敷地外環境				0.30			3.0
1 大気汚染防止			3.0	0.15			3.0
2 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.15			3.0
2.1	騒音		3.0	0.33			
2.2	振動		3.0	0.33			
2.3	悪臭		3.0	0.33			
3 風害、日照障害の抑制			3.3	0.15			3.3
3.1	風害の抑制		3.0	0.70			
3.2	日照障害の抑制	隣地境界線(北側)から遠く離れている	4.0	0.30			
4 光害の抑制			3.0	0.10			3.0
5 温熱環境悪化の改善			3.0	0.30			3.0
6 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.15			3.0
6.1	雨水処理負荷抑制		3.0	0.25			
6.2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
6.3	交通負荷抑制		3.0	0.25			
6.4	廃棄物処理負荷		3.0	0.25			

■ LR-1 用途別得点表		学校				面積按分 総合スコア
1	建物の熱負荷抑制	3876 ㎡	5.0	—	—	5.0
3	設備システムの 高効率化	ERRIによる評価 個別設備による評価	—	—	—	4.1
3.1	空調設備		4.0	—	—	—
3.2	換気設備		3.0	—	—	—
3.3	照明設備		5.0	—	—	—
3.4	給湯設備		—	—	—	—
3.5	昇降機設備		—	—	—	—